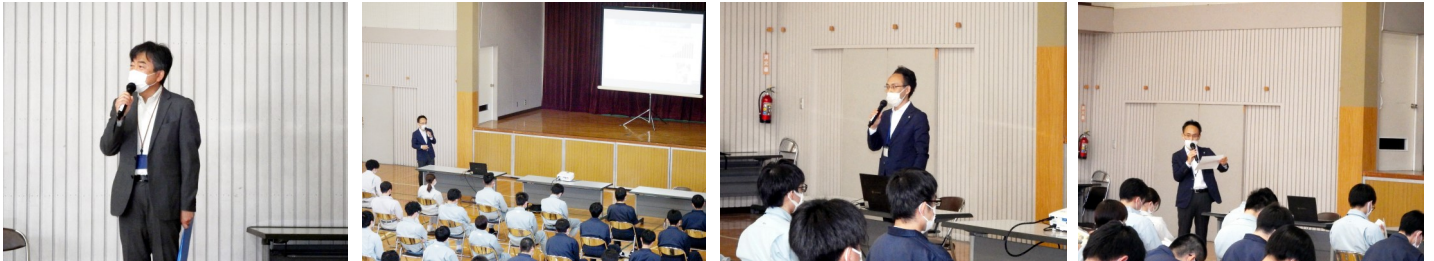


# ふるさと青森の良さを再確認「青森県で働き、暮らす魅力」についての講話を受講しました

令和4年5月25日(水)に当校の学生を対象に、県内企業への就職を促進するため青森県が取り組んでいる事業について紹介をする講話が開催されました。講話が始まる前に外崎彰校長から、県全体では進学や就職を契機とした若者・女性の県外流出に歯止めがかかっていない状況であり、多くの産業分野で慢性的な人手不足が顕在化している。地域経済や地域住民の生活に大きな影響を与える深刻な問題となっているので、今回の講話を機に自分達が住んでいる地域の魅力を確認するとともに地元への愛着を持って将来の青森県を支える人財になって欲しいと挨拶がありました。



その後、県の商工労働部労政・能力開発課産業人財確保支援グループの成田英司さんが講師となり、青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦で課題となっている人口減少を抑制するための取組みである「若年者の県内定着促進事業」の一部を3つの項目に分け、①データでみる地元就職、②青森県に対するイメージの変化、③青森県の暮らしやすさ・働きやすさについて、具体的な事例や動画を用いて説明をしていただきました。

— 本日の流れ —

- ◆ データでみる地元就職
- ◆ 青森県に対するイメージ
- ◆ 青森県の暮らしやすさ・働きやすさ
- ◆ 本日のまとめ

### 県外就職に関する青森県の若者の意識

県外就職を希望した理由?

① 県外で働きたい	56.4%
② 自宅を離れて生きたい	31.0%
③ 地元での就職がない	25.1%
④ 地元で働きたい	23.3%
⑤ 地元で働ける仕事がない	18.6%
⑥ 就職先で働きたい	17.6%
⑦ 地元で働ける仕事が少ない	12.5%
⑧ 就職先で働きたい	12.3%

【とにかく地元を離れたくない】賃金等の待遇面だけではなく、成長過程で育まれてきた「県外志向」

### ネガティブイメージの働く場所が少ない

県内企業は人手不足、創業・起業も増加

5年連続100円超(4年連続90円超)

### 変わってきた青森県

県産品の販売方法・形態もスタイリッシュに!

### コロナ禍による価値観や社会環境の変化

- <新型コロナウイルス感染症拡大により顕在化した社会的価値観の変化>
  - 「密」な大集いの感染リスクが浮き彫りに
  - 「適度な距離」と人のつながりがある地方暮らしが見直されている。
- <新しい生活様式に対応した社会経済活動の変化>
  - テレワーク導入など働き方の変革(家庭で過ごす時間の重要性が増大)
  - 非対面型・非接触型のワークスタイルの確立
  - Web会議、越境ECの活用などによる海外への販路開拓(ネットによる販路開拓)
  - サブライチエーションの感性に対応するための「輸入から国産」への切替
  - 食料自給率の高い本県は農林水産品の供給などに強みあり

### 青森県の暮らしやすさ、働きやすさ

「Excell!」大学生の本音

イベントやライブが充実している都会に憧れはあったけれど、生活する上で毎日必要なのは居心地の良さだと思えるようになった。

当校のほとんどの学生は県内企業への就職を希望しており、実際に将来、地元で働くことについてどのようなメリットがあるか、真剣な眼差しで成田講師の説明に耳を傾けていました。



また講話では、首都圏までは東北新幹線の整備や航空路線も充実されたことと職種によってはリモートワークが広がり、働く場所を選ばない時代へと変化してきていることでもあります。第一に地元で働くメリットは自分が慣れ親しんだところの安心感があります。家族が近くにいる、学校の友人や地元の幼馴染など顔見知りが多いことにより、上京して一人暮らしをするよりも精神的な支えが身近にあることは大きなメリットになります。さらに実家に住む場合は生活費も節約できるので、経済的な負担も軽減することができます。

特に女性にとって重要になるのは、結婚や出産後も働き続けるためのサポートです。初めての育児の場合は特に、何かあったときには両親など助けてくれる人が近くにいるのは非常に心強いことです。そのようなサポート体制が取れずに、なかなか働けない方がたくさんいるのが現状です。

さらに地元で働くメリットとしては、通勤時間が比較的短く時間にゆとりがあるので、プライベートの時間を持ちやすいという説明もありました。大都市近郊で働く場合、通勤時間が長いのは当たり前であり通勤ラッシュでは精神的にも肉体的にも疲弊してしまいます。一方県内ではそのようなことはほとんどなく、ストレスの少ない通勤をすることができます。といった具体的な説明もありました。

今回の講話を通して、ふるさと青森の魅力を再確認することができたと思います。自分たちが住んでいる地域では当たり前すぎて見落としがちなのも多くありますが、2018年に東京都から弘前市へ青森の自然や文化に惚れ込んで移住した多田慎也さんのインタビューでは、「桜の開花やリンゴの育成など、常に自然と共に生きているので感性が研ぎ澄まされているのでしょうね。でも、決して自己主張し過ぎず奥ゆかしい。青森の人たちの気質を一言でいえば「静かにアツイ感じ」とコメントしています。また、「青森だからこそ挑戦できること、ここでしか培えない感性があるのに、東京など都市部に行かないとクリエイティブな仕事ができないと思う人がいたとしたら、それはとてももったいないこと。自分たちが住んでいる場所を誇りに思ってアイデンティティを発信していくことが、もしかしたら全国規模で広がっていく近道になるんじゃないか」と話されていました。

あっという間の講話でしたが、三方を海に囲まれた県内のそれぞれの地域では、四季折々に美しい姿を見せる雄大な自然と豊かな風土に恵まれています。学生のみなさんは、今後、自分の将来を決めるに当たり、青森県での「ゆとりある暮らし」を検討して将来設計を描いてみてはどうでしょうか。